

団体名：デザインあや
 事業名：多様性社会において人と人を笑顔でつなげる「かけはし」
 障害者アートの新しい活用の形「はんこアート体験」

様式第2（第8条関係）

事業計画書

No. 1

（つつじ補助金・くすのき補助金）

①事業の区分 <small>（該当する事業にチェック☑）</small>	(1) 保健、医療又は福祉の増進を図る事業	<input checked="" type="checkbox"/>	(11) 国際協力を行う事業	<input type="checkbox"/>
	(2) 社会教育の推進を図る事業	<input checked="" type="checkbox"/>	(12) 男女共同参画社会の形成の促進を図る事業	<input type="checkbox"/>
	(3) まちづくりの推進を図る事業	<input type="checkbox"/>	(13) 子どもの健全育成を図る事業	<input checked="" type="checkbox"/>
	(4) 観光の振興を図る事業	<input checked="" type="checkbox"/>	(14) 情報化社会の発展を図る事業	<input type="checkbox"/>
	(5) 農山漁村又は中山間地域の振興を図る事業	<input type="checkbox"/>	(15) 科学技術の振興を図る事業	<input type="checkbox"/>
	(6) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る事業	<input checked="" type="checkbox"/>	(16) 経済活動の活性化を図る事業	<input checked="" type="checkbox"/>
	(7) 環境の保全を図る事業	<input checked="" type="checkbox"/>	(17) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充の支援を行う事業	<input type="checkbox"/>
	(8) 災害救援事業	<input type="checkbox"/>	(18) 消費者の保護を図る事業	<input type="checkbox"/>
	(9) 地域安全事業	<input type="checkbox"/>	(19) 公益的社会的貢献活動団体の運営又は活動に要する通称、助言又は援助を行う事業	<input checked="" type="checkbox"/>
	(10) 人権の擁護又は平和の推進を図る事業	<input type="checkbox"/>	(20) 前各号に掲げる事業に準ずる活動として愛知県の条例で定める事業	<input type="checkbox"/>
②現状把握・分析・事業目的 <small>必要性</small>	<p>少子高齢化が急速に進む現在、福祉への理解と協力を多くの人に拡大・拡充することが望まれる。押し付け的な障害福祉啓発ではなく、笑顔溢れる交流により、健常者と障害者、高齢者、多世代間の垣根を越えて温かな繋がりを築き、多様性社会における「共に生きる未来」を真に実現したい。そして、人が生きるうえで自然環境を無視することはできない。人もまた自然の一部であることも伝えるべき大切なこと。福祉とはすべての命が幸福であることだと考える。すべての命の幸せを願い、人と植物、人と動物、人と自然が寄り添ってきた文化や歴史、先人の知恵の結晶を知ることによって福祉的な意義を含む環境保全の意識の向上を図りたい。</p>			
③事業内容（詳細） <small>実効性</small>	<p>重度知的障害自閉症のアーティスト花島愛弥さんが描くのんほいパークの動物たちを「はんこ」にして、様々な素材（紙）にスタンプし、誰でも簡単に失敗なくアート作品を作るワークショップを行う。素材には世界の紙や日本の和紙を使用したメニューを用意。人と自然に関心を向けてもらうため、はんこアート体験の素材となる紙漉き体験イベントを実施。花島愛弥作品展では絵画作品だけでなく、世界の紙日本の紙による「はんこアート作品」を展示。「はんこ」を彫るワークショップをして欲しいとの要望に応え、地域企業より活用要請のあったレンタルスペースにて「消しゴムはんこ作成講座」を開催。</p>			
④スケジュール <small>実効性</small>	事業期間	令和 8年 8月 1日から 令和 9年 3月 31日まで		
	実施日	内容	会場	参加者数見込
	8～3月	はんこアート体験WS	のんほいパーク	800人
	12月	紙漉き体験	のんほいパーク	60人
	3月	花島愛弥作品展&WS	のんほいパーク	1400人
8～3月	消しゴムはんこ作成講座	ヤクルトサロン	10人	
⑤周知方法・対象 <small>実効性</small>	<p>周知方法：ちらし・ポスター掲示、広報および掲載、のんほいパークとデザインあやSNS 対象：市内全域の市民</p>			
⑥実施体制 <small>実効性</small>	<p>協力団体：のんほいパーク、みどりの協会、和紙のふるさと運営協議会、東三河ヤクルト販売 実施メンバー：デザインあやスタッフ5名、ボランティア適時募集</p>			

（つつじ補助金・くすのき補助金）

<p>⑦事業が公共の利益に寄与すると考える理由及び事業実施による市民(地域)への波及効果</p> <p style="text-align: center;">公益性・実効性</p>	<p>障害者アートの新しい活用の形による日本初の障害福祉啓発活動であり、手軽に、気軽にアート制作ができることで、達成感や満足感が得やすく、これまで芸術活動にあきらめのあった人や遠ざかっていた人のアート活動参加が見込める。障害の有無、年齢、個人の能力、国籍を問わず誰もが楽しむことができ、教育的、医療的、福祉的にも高い意義と効果がある。参加者が障害福祉の理解を温かな気持ちで醸成できる。のんほいパーク植物園 30 周年を応援し、植物素材に注目した体験活動を企画することで人と自然の関係性を学び、環境保全の意識を向上させる。合理的配慮ツールとしてのシヤチハタ X スタンパーの活用は、ハンコレスの時代に突入した現代において障害者による企業応援でもある。地域企業の貸しスペースの活用もまた地域応援の一環。</p>
<p>⑧事業実施後の活動について</p> <p style="text-align: center;">継続性</p>	<p>既に 200 日開催で約 10000 人（万博含む）の参加者があり、多くのリピーターから喜びの声をいただいている。特に既存のレクリエーション活動に難しさある方が参加可能であることから、放課後等デイサービスや障害福祉サービス事業所等での開催を要望され実施している。こども発達センター医師からは作業療法士が注目するだろうとコメント。そのほか、老人クラブでの実績からも、脳や身体のリハビリの効果を期待できることから、老人保健施設でのレクリエーション活動としても有効だと考えている。お祭りなど地域イベントでの開催によって、障害福祉啓発を効果的に推進することができる。</p>

（くすのき補助金）

<p>⑨事業の創作的又は開拓的である部分</p> <p style="text-align: center;">先駆性</p>	<p>障害者アートをレクリエーションの形にすることで、楽しみながら障害者について知る機会になる障害福祉啓発の新しいスタイルであること。のんほいパーク認定アーティストの絵柄を使うことにより、のんほいパークでお馴染みの動物はんこ 150 種類以上から好きな動物を選び、想像力を豊かに働かせながら動物のいる景色を創作することで動物の種としての理解や芸術性を育むことができる。シヤチハタ X スタンパーを合理的配慮ツールとして起用することで、バリアフリー化が進み、幼児から高齢者、障害者まで参加が可能になった。障害者アートのシヤチハタ X スタンパー化ならびに X スタンパーを絵筆の様に使用した「はんこアート」は日本初とのこと。</p>
<p>⑩事業で団体の持つ専門性が生かされている部分</p> <p style="text-align: center;">専門性</p>	<p>メンバーがはんこ作家や福祉職員、障害者家族からなるため「はんこ」をアートツールとするアイデアが生かされ、ハンディのある人へのアート活動支援が効果的にできる。動物学、植物学、博物学等自然科学に精通したスタッフにより、楽しい話題の提供や面白い雑学の伝達をすることで、興味関心を引き出し、自然環境保全のまなざしを育むことができる。</p>